

リインフォースー1

300カプセル入り

リインフォースー1は軟骨の再生を助け、炎症を抑えることで関節症に対抗するサプリメントです。軟骨は骨の先端を覆い、骨がこすりあう際に生じる摩擦を軽減すると同時に日常生活でかかる骨への衝撃を和らげる働きを持っています。軟骨は主に潤滑油としての水分、水分を保持するプロテオグリカン、プロテオグリカンを固定するコラーゲン、コラーゲンやプロテオグリカンを作り出す軟骨細胞で構成されており、変形性関節症はこの軟骨が消耗することで引き起こされます。また、関節症やそれに伴う炎症はフリーラジカルが関係しているといわれています。リインフォースー1に含まれる各成分の働きは次の通りです。

グルコサミン・・・グルコースとグルタミンで構成されているムコ多糖類で、プロテオグリカンやグリコサミノグリカン（軟骨を形成するタンパク質）の材料となります。また、急性炎症は白血球の好中球が深く関わっています（細菌感染時には好中球が活性酸素を作り出し対抗しますがそれが炎症の原因ともなります）が、グルコサミンには好中球の遊走や貪食を阻害することで活性酸素の生成を抑えたり、好中球の粘着能を阻害することで血流速度を改善する働きがあることがわかっています。

コンドロイチン・・・プロテオグリカンに水分を送り込み、また軟骨を分解する酵素の働きを抑制します。コンドロイチンには自身の重量の数百倍の水分を保持する能力があるといわれています。また、通常血管が通っていないはずの軟骨に血管が入り込み（血管新生）、軟骨を変形することで関節症を引き起こすケースがありますが、コンドロイチンにはその血管新生を阻害する働きもあります。

MSM（メチルスルフォニルメタン）・・・針葉樹から抽出した天然の有機イオウ化合物で、メチオニンやシステインなどにイオウを渡すことで皮膚、髪、爪、関節などを形成しているコラーゲンの合成を助けます。また、細胞の柔軟性や浸透性を復元し、炎症による痛みや腫れを軽減させます。

ボスウェリア・セラタ・・・インドの樹木で、ゴム樹脂の滲出液はアーユルヴェーダでリウマチ、呼吸器疾患、肝疾患の治療に使われてきました。有効成分として4種類のボスウェリア酸（ β ボスウェリア酸、アセチル β ボスウェリア酸、1,1-ケト β ボスウェリア酸、アセチル1,1-ケト β ボスウェリア酸）があり、これらが5リボキシゲナーゼとヒト白血球エラストラーゼという2種類の炎症促進性酵素の働きを抑制することがわかっており、その抗炎症効果はNSAID（非ステロイド抗炎症薬）と同等であるといわれています。

キャッツクロー・・・ペルー原産のアカネ科カギカズラ属のかん木で、ツルに猫の爪のような刺があることからキャッツクロー（猫の爪）と呼ばれています。キャッツクローには6種類のオキシインドール・アルカロイド（イソテロポディン、テロポディン、イソミトラフィリン、ミトラフィリン、イソリンコフィリン、リンコフィリン）が含まれており、これらのアルカロイドがマクロファージ（食細胞）の貪食作用を促し、免疫力を高めることがわかっています。また同じくキャッツクローに含まれているキノビク酸やステロール類（ β シトステロール、スティグマステロール、キャンペステロール）が抗炎症作用を持っており、アルカロイドと相乗的に働きます。キャッツクローは慢性的な痛みにも発作的な痛みに対しても優れた鎮痛効果を発揮します。例えば、片頭痛の原因の一つとして血液の循環が悪くなることが挙げられますが、リンコフィリンの持つ血小板阻害作用や血栓防止作用が血液の流れを改善することによって、痛みを軽減させると考えられています。

ショウガエキス・・・有効成分のジンジャロールやショウガオールが炎症を誘発するプロスタグランジン、ロイコトリエン、サイトカインの生成を抑えることが知られており、リウマチ性関節症から筋肉痛まで様々な炎症の緩和に幅広く利用されています。

ビタミンC・・・水溶性の抗酸化物質で、コラーゲンが生成されたり適切に働くために必要です。

ビタミンE・・・脂溶性の抗酸化物質で、血小板の凝集を抑えたり血管の柔軟性を維持することで血液循環を高める働きがあります。

構成成分（1カプセルあたり）

グルコサミン	150mg
コンドロイチン	120mg
MSM	100mg
ボスウェリア・セラタ	50mg
キャッツクロー	50mg
ショウガエキス	25mg
ビタミンC	25mg
ビタミンE	5mg
その他の成分：被包剤（ゼラチン）	

使用例：一日合計10カプセルを食後などにお摂りください。